

VISUALIZE THE FUTURE



2021年3月期 第3四半期

決算補足説明資料

株式会社デジタルメディアプロフェッショナル

2021年2月9日

本資料に記載された意見や予測などは資料作成時点での当社の判断であり、その情報の正確性を保証するものではありません。様々な要因の変化により実際の業績や結果とは大きく異なる可能性があることをご承知おきください。

事業内容	3
2021年3月期 第3四半期決算ハイライト	
損益計算書	4
事業別売上高	5
貸借対照表	6
2021年3月期 第3四半期トピックス	7
2021年3月期 通期業績予想	8
今後の成長イメージ	9
ご参考) 当社4月以降本日までの活動状況	10

事業	事業内容	主要顧客
IPコア※1 ライセンス事業	<p>精細画像の描画やディープラーニング（深層学習）※2などの人工知能（AI）※3に必要なハードウェアIP（論理設計データ等）やソフトウェアIP（主にハードウェアを制御するドライバーやコンテンツ制作を支援するツール類）の開発、ライセンス（使用許諾）供与</p> <p>a) ライセンス収入 顧客が家電製品等の開発を進める過程で、当社がIPコアライセンスのライセンスを与えたことによる対価</p> <p>b) ランニングロイヤリティ/サブスクリプション収入 顧客がIPコアを組み込んだ製品を販売する際に、製品出荷個数に応じて当社が顧客から収受する対価/顧客がクラウドサービス上の当社ソフトウェアにアクセス・解析を行った回数に応じて当社が顧客から収受する対価</p> <p>c) 保守サービス 保守契約に基づくIPコアの保守等</p>	半導体メーカー 半導体が組み込まれた 最終製品メーカー
LSI製品事業	<p>グラフィックス LSI※4(SoC※5)(主にアミューズメント機器向け)の開発・製造・販売（製造は委託）</p> <p>AI LSI(FPGA※6)(AIを使用する機器向け)の開発・製造・販売（製造は委託）</p>	半導体商社 半導体が組み込まれた 最終製品メーカー
プロフェッショナル サービス事業	当社の各種IPコアをインテグレーションしてSoCシステム全体を検討・最適化する設計サービス、自社製品の開発により培ったGPU※7/ビジョン/AI技術等をベースにしたアルゴリズム開発や最適化を行なうソフトウェア/ハードウェアサービス等さまざまなサービスを提供	半導体が組み込まれた 最終製品メーカー

※1: LSIを構成するための部分的な回路情報のうち、特に単一機能でまとめられたもの（例：グラフィックスIPコア）。IPはIntellectual Propertyの略称

※2: 画像認識分野などで実用化が進む、人工知能を実現する機械学習の手法の一種。人間の脳を模したニューラルネットワークの仕組みを活用

※3: 人間が行っている認知や判断を、コンピュータを使って行うためのソフトウェアやシステムのこと。文章、画像、会話、音などを理解し判断するコンピュータプログラムなど

※4: シリコンウエハ（半導体製品の製造に使用される導体と絶縁体の中間の性質を持つ物質）で形成される大規模集積回路。Large Scale Integrationの略称であり、「半導体」とも呼ばれる

※5: 一つの半導体チップ上に必要とされる一連の機能（システム）を集積する集積回路（の設計手法）。System on a Chipの略称

※6: 製造後に購入者や設計者が構成を設定・変更できる集積回路。Field Programmable Gate Arrayの略称

※7: コンピュータゲームに代表されるリアルタイム画像処理に特化した演算装置ないしプロセッサ。Graphics Processing Unitの略称。CPUよりも並列演算性能にすぐれた特性を生かし、その演算資源を画像処理以外の目的に応用する技術（GPGPU: General-Purpose computing on GPU）がAI・ディープラーニング分野に活用されている

- **ベトナム子会社の事業開始に伴い、連結決算体制に移行（前年同期との単純比較できず）**
（但し、ベトナム子会社の売上高は現段階では本社へのデザインサービス収入のみで、外部売上なし）

(単位：百万円)	2020年3月期 第3四半期 (個別)	2021年3月期 第3四半期 (連結)
売上高	661	834
営業利益	△159	△ 294
経常利益	△166	△ 242
四半期純利益	△167	△ 244

- IPライセンス事業は既存ランニングロイヤリティの減、プロフェッショナルサービス事業は一部顧客の開発投資減の影響により、前年同期売上高を下回ったが、グラフィックプロセッサ「RS1」の量産出荷は前年を上回り、全体として売上高は増収
- 事業ミックス（LSI製品事業の売上比率増加）により、営業利益以下は前年同期を下回った
- 前年同期に営業外費用に計上した新株発行費が剥落するとともに、営業外収益にNEDOからの助成金収入を計上したことにより、営業外収支が改善

IPコアライセンス事業

売上高 101百万円

前年同期個別 (参考) 114百万円

- デジカメ中心にデジタル機器向けの既存ランニングロイヤリティが減少
- 一部顧客の開発投資／開発プロジェクトの抑制・延伸の影響あり
- ロボティクス向け等のAI新規・アップグレードライセンス収入、AI安全運転支援に係るランニングロイヤリティを計上

LSI製品事業

売上高 600百万円

前年同期個別 (参考) 333百万円

- RS1の量産向けおよびAI FPGAモジュール「ZIA™ C3」の売上を計上

プロフェッショナルサービス事業

売上高 132百万円

前年同期個別 (参考) 214百万円

- NEDO AIエッジコンテストの受託収入および安全運転支援、ロボティクス向け等のAI関連受託開発サービスの売上を計上
- 一部顧客の開発投資／開発プロジェクトの抑制・延伸の影響あり

自己資本比率は90.9%と高水準を維持

第2四半期の役員/従業員向けRS発行により、資本金、資本剰余金がそれぞれ34百万円増加

(単位：百万円)		2020年 3月末 (個別)	2020年 12月末 (連結)	主な内訳
	流動資産	3,077	2,946	現預金 2,005, 有価証券 442 売掛金 328
	固定資産	763	757	投資有価証券 500 ソフトウェア 118
資産合計		3,841	3,704	
	流動負債	279	318	買掛金 238
	固定負債	18	18	資産除去債務 17
負債合計		298	337	
純資産合計		3,543	3,367	資本金 1,838, 資本剰余金 1,858 利益剰余金 △319
負債・純資産合計		3,841	3,704	

- ・業務・資本提携先のヤマハ発動機とは、陸海空に渡る製品のロードマップに沿ったAI実装の取り組みを継続
- ・注力分野における製品・サービス開発、顧客ベース拡大、技術提携等の取り組みを強化・加速

ロボティクス分野

・米NVIDIA社「NVIDIA Partner Network」にプロフェッショナルサービスのパートナーとして参画

同社のエコシステムを通じ顧客ベースを拡大、顧客のロボティクス製品の早期開発、早期市場投入の実現に貢献、ビジネスのさらなる加速・強化を図る

・ZIA™ SLAMの提供を開始

LiDARと比較して安価なカメラを用いた高精度なVisual SLAMにより、顧客機器の高性能化、コスト低減に貢献



・以上の取り組み等に対して、お客様からPoC（Proof of Concept：概念実証）の受注も含め引き合いが増加中

・市場拡大が続くロボティックビークルや協働ロボット分野へのソリューション開発・提供を継続的に強化し、ビジネス拡大を図る

安全運転支援分野



・ZIA™ SAFEとZIA™ Cloud SAFEの連携による安全運転支援サービスを提供

安全運転支援システム開発プラットフォームとして多くの実績があるZIA™ SAFEとアマゾン ウェブ サービス（AWS）を使ったSaaS型安全運転支援クラウドサービスZIA™ Cloud SAFEの連携により、業界初のエッジAIからクラウドまで対応した安全運転支援システム構築のプラットフォームを提供

・JVCケンウッドがZIA™ SAFEを採用

テレマティクスサービス向け通信ドライブレコーダー（製品型番STZ-DR00）に採用される

・既存顧客のプロジェクトの深耕や新規顧客の開拓を継続中、サブスクリプションやロイヤリティ収入といったストックビジネスを含めた事業全体の収益拡大を図る

その他の分野

・フランスGrAI Matter Labs（GML社）と提携

脳に着想を得た超低遅延コンピューティングのパイオニアであるGML社と新しいバーチャルAIスポーツコーチアプリケーションを共同開発、2021年2月4日～7日にオンラインで開催されたdocomo Open House 2021においてデモを実施。今後、スポーツ分析、生活支援、産業オートメーション、監視等様々なアプリケーションにおいて、リアルタイムな姿勢・動作推定を使ったバーチャルAIアシスタントの実現とビジネス開発を図る



・横河電機グループのアムニモの産業用IoTデバイスにエッジAIプロセッサIPコア「ZIA™ DV720」が採用

過酷な環境で長期間動作することが要求される産業用IoTデバイスに超低消費電力、ローコスト、かつ高いAI推論処理性能を実現。今後も安定成長を続ける産業IoT分野のビジネス開発を継続

短期的にはCOVID-19のマイナス影響。中期的成長実現の取り組みを強化

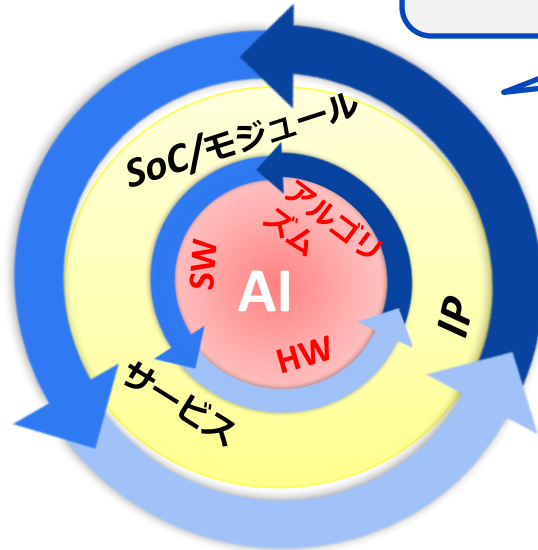
(単位：百万円)	2020年3月期 (個別実績)	2021年3月期 第3四半期 (連結実績)	2021年3月期 (連結予想)
売上高	1,328	834	1,500
営業利益	82	△294	△ 150
経常利益	85	△242	△ 100
当期純利益	65	△244	△ 100

- 2021年3月期通期連結業績予想は2020年11月10日に公表した予想を据え置き
- 市場成長が期待でき、かつ当社の保有するテクノロジーや強みがフィットする分野におけるビジネス開発と収益化を図り、中期的な成長を果たすとともに、社会課題の解決に貢献
 - ロボティクス分野：製造、物流、農業、日常生活等の幅広い現場における人手不足の解消、生産性や生活の質の向上、新型コロナウイルス感染症予防といった観点から、ロボティックビークルや協働ロボットの市場はともに年率40%程度の成長余地
 - 安全運転支援分野：危険運転事象のリアルタイム検出や事後の安全運転教育の需要が伸びており、通信型ドライブレコーダー市場は安定的に拡大

AI Computing Company 「世界のDMP」へ飛躍

AIアルゴリズム、ソフトウェア、ハードウェアを一貫して開発

成長するIoT・AI (人工知能) 分野へ拡大



勝てる「アミューズメント市場」で
安定した経営基盤
マルチプラットフォーム
アミューズメントSoCトップシェアを目指す

ZIA AIプラットフォームの展開

- プロセッサIP
- ソフトウェア
- モジュール
- パートナーとのエコシステム強化
- 海外展開

モビリティ/産業向けAIソリューション

- 自動運転
- ロボティクス、ロボティックビークル
- Safety / DMS

SoC/モジュールビジネス拡大

- 高付加価値モジュール
- ハイボリュームAI製品

現在地 ●

フェーズ1

フェーズ2

フェーズ3

ご参考) 当社4月以降本日までの活動状況

各項目は当社ウェブサイトのPR/IRニュースにリンクしています

発表／開催日	内容
2020年4月1日	ベトナム子会社設立、事業開始
2020年5月11日	経済産業省、NEDO、SIGNATEとともに第3回AIエッジコンテストを開催
2020年5月14日	フランス Prophesee社とイベントベースビジョンセンサーを使った組込みマシビジョンおよび人工知能（AI）アプリケーションの開発で協業
2020年6月8日	サイレックス・テクノロジー、PALTEKと車両AI評価キットを共同開発し、AIによる安全・遠隔・自動化ソリューション開発をサポート
2020年7月1日	経済産業省、NEDO、SIGNATEとともに第4回AIエッジコンテストを開催
2020年7月1日	フィンランド Basemark社と商用車用のスマートミラー開発で提携
2020年7月13日	ZIA™ ISP IPコア リリース
2020年7月13日	ZIA™ DV740 IPコア リリース
2020年7月15日	ウェブサイトリニューアル
2020年9月7日	リョーサンの蔦屋家電+への展示（協働ロボット）に画像認識AIソフトウェアを提供 (Blog)
2020年10月28日	アムニモの産業用IoTデバイスにエッジAIプロセッサIPコア「ZIA™ DV720」が採用
2020年11月10日	Amazon Web Servicesを使ったSaaS型安全運転支援クラウドサービス「ZIA™ Cloud SAFE」を発表
2020年11月30日	NVIDIA Partner Networkに参画、ロボティクス分野向けの自動・自律化向けAIビジネスを加速
2021年1月18日	SLAMソフトウェア「ZIA™ SLAM」の提供を開始
2021年2月1日	フランスGML社と提携、docomo Open House 2021においてバーチャルAIスポーツコーチのデモを公開
2021年2月9日	JVCケンウッドのドライブレコーダーに安全運転分野向けAIプラットフォーム「ZIA™ SAFE」が採用

<お問い合わせ先>

株式会社デジタルメディアプロフェッショナル 経営企画部

TEL:03-6454-0450

URL: <https://www.dmpref.com/jp/ir/>

本資料に含まれる将来の見通しに関する記述は、現時点における情報に基づき判断したものであり、マクロ環境や当社の関連する業界動向等により変動することがあります。従いまして、実際の業績等が、本資料に記載されている将来の見通しに関する記述と異なるリスクや不確実性がありますことをご了承ください。